

## 櫻井賞

平成 25 年度櫻井賞第 41 回受賞者

浜根 大輔 会員 (東京大学物性研究所)



1979 年 2 月 5 日生まれ。2002 年 3 月愛媛大学理学部生物地球圏科学科卒業。2004 年 3 月愛媛大学大学院理工学研究科生物地球圏科学専攻修了。2007 年 3 月北海道大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻修了博士(理学)。2006 年 4 月平成 18 年度日本学術振興会特別研究員 (DC2・PD)。2008 年 4 月平成 20 年度日本学術振興会特別研究員(PD)。2010 年 4 月東京大学物性研究所特任専門職員。2012 年 4 月東京大学物性研究所技術職員。2014 年 9 月現在に至る。

対象鉱物：宮久石

D. Nishio-Hamane, Y. Ogoshi and T. Minakawa:

Miyahisaitite,  $(\text{Sr,Ca})_2\text{Ba}_3(\text{PO}_4)_3\text{F}$ , a new mineral of the hedyphane group in the apatite supergroup from the Shimoharai mine, Oita Prefecture, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, Vol. 107, 121-126, 2012.

推薦理由：

浜根大輔会員は、大分県下払鉱山の変成マンガン鉱床から、ストロンチウムとバリウムを主成分とするリン酸塩鉱物、宮久石を記載した。この鉱物は燐灰石スーパーグループの一つであり、日本各地にある同様な変成マンガン鉱床中におけるストロンチウムやバリウムの地球化学的挙動を考える上での重要な材料の一つとなる。共著者の一人、皆川鉄雄会員は下払鉱山においてストロンチウムやバリウムを含む稀産鉱物の研究に携わっていた実績があり、それが基礎となって浜根大輔会員による新鉱物の発見という成果となった。

浜根大輔会員は、宮久石以外にも、愛媛閃石 (後にクロムパーガス閃石に名称変更)、伊勢鉱、高縄石、岩手石など変成マンガン鉱床のみならず、様々な地質環境からの新鉱物記載の筆頭著者として活躍している。櫻井賞選考委員会は、これらの貢献も考慮して、浜根大輔会員を平成 25 年度櫻井賞 (第 41 回) 受賞者として推薦するものである。